報道関係者各位

2026 年 11 月 27 日

サイボウズ株式会社

クロスティホールディングス、kintone でエンジニアに依存しない業務基盤を構築

kintone で資材発注を標準化し、1 人あたり月 3.2 時間を削減。残業時間も見える化

サイボウズ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：青野慶久、以下サイボウズ）は、株式会社クロスティホールディングス（本社所在地：北海道札幌市、代表取締役：林秀樹、以下クロスティホールディングス）の「kintone（キントーン）」活用事例を公開しました。

クロスティホールディングスは、エンジニアに依存しない業務基盤の確立と定着を目指し、kintone を導入。社内浸透施策として開発した「残業管理アプリ」や、現場課題から生まれた「資材発注アプリ」で、大幅な業務改善を実現しました。4 名のデジタル推進部が現場と経営をつなぎ、業務改善とデータ活用を進めています。



「資材発注アプリ」で発注内容の可視化や検索性の向上、未回答発注の色分け、金額の自動計算などを実現

■kintone 導入と社内浸透の流れ

同社は、北海道を中心に住まいに関する幅広い事業をグループで展開しています。2021 年のホールディングス化をきっかけに、グループ会社 9 社・従業員約 270 名が所属するグループ全体の情報システム業務や、社内システムの選定・構築を担うデジタル推進部を設立。発足当時は、社内エンジニアによる開発を進めていましたが、その後数名のエンジニアが退職。残る 4 名で、通常の情報システム業務と兼務しながらエンジニアに頼らず保守・管理できる社内システムの構築が必要となりました。

同社は、複数製品を比較検討し、kintone を選択。kintone にはユーザーコミュニティや、「kintone エバンジェリスト」といった社外の専門家に相談できる環境に加え、状況に応じて運用・保守を支援するパートナー企業が充実している点を評価。少人数でも安定的な継続運用が可能と判断し導入を決定しました。

一方、デジタル推進部のリソースも限られていたため、社内メンバーの巻き込みと活用の定着が課題となりました。そこで、３つの工夫を行いました。

1. 社長が主導する「カイゼン提案コンテスト」で kintone を活用。活用相談には社長も同席し、経営への思いを語ってもらうことで、経営方針と kintone の活用イメージを早期にすり合わせ。
2. 部署ごとの残業時間を確認できる「残業管理アプリ」を開発し、役職者が日常的に kintone を利用できる環境を整備。
3. 社内ポータルから kintone へシームレスにアクセスできるシングルサインオン環境を整備。

■手書き発注から脱却し、1 人あたり月 3.2 時間削減。残業も「見える化」

同社では現在、約 90 個のアプリが稼働しており、代表例は役職者への定着施策として開発した「残業管理アプリ」と、同社グループ間をつなぐ「資材発注アプリ」です。資材発注業務の効率化や残業時間の可視化に加え、kintone の社内定着・活用拡大にも貢献しています。

- 「残業管理アプリ」
  週単位・日単位の状況確認や 45 時間超過見込みの通知を可能にし、役職者は自部署の残業時間をいつでも確認できるようになりました。これにより役職者への kintone 定着に加え、労務管理の強化にも貢献。画面と通知で状況をつかめるようになり、役職者による声掛けや部署内での業務調整の動きが生まれています。

- 「資材発注アプリ」
  グループ企業の電気・空調工事のエコテックと、資材卸のエコライフの 2 社間連携を実現し、従来は手書き注文書やベテランの経験頼りだった手配業務を標準化。発注内容の可視化や検索性の向上、未回答発注の色分け、金額の自動計算を可能にしました。これにより、文字の誤読や電話確認などのロスを減らし、工事遅延に直結する発注ミスを防げるようになりました。現在はグループ内の複数拠点へ展開が進み、1 人あたり月 3.2 時間もの作業時間削減を達成しました。

■kintone はグループのデータをつなぐ共通基盤に

同社は、現場の課題から生まれたアプリを増やすとともに、基幹システムとのデータ連携も進めてきました。現在は、工事・請求・売上や残業時間などのデータを kintone に取り込み、BI ツールで可視化しています。基幹システムに直接アクセスせずに kintone を経由することで、データを扱いやすくなりました。

■今後の展望：目指すのは、現場が自らアプリをつくる組織

今回 kintone の導入・活用を推進した同社 経理管理本部 デジタル推進部 係長 大村 優輝氏は「専用の SaaS を導入するのではなく、身近な課題を kintone で解決していきたい」とコメント。「いろいろなことができるのが、kintone の良さ」と述べており、今後はグループ各社・各部署の現場メンバーが自らアプリを作り、業務改善に取り組める体制を目指しています。現在は最終的にアプリをつくる工程をデジタル推進部が対応しているため、社内勉強会や定期的なサポートを通じて、現場主導の業務改善を支援していきたいと展望を語りました。

■クロスティホールディングス「kintone」活用事例

活用事例の詳細については、kintone 製品サイトの導入事例ページにてご紹介しています。
https://kintone-sol.cybozu.co.jp/cases/crosstyholdings.html

■kintone とは

東証プライム上場企業の 46%を含む、国内で 41,000 社以上が利用しているサイボウズの業務改善プラットフォームです（2026 年 9 月時点）。IT の知識がなくても自社の業務に合わせたアプリをノーコード・ローコードと AI で作成でき、素早く低コストで業務改善を実行できます。主な機能として「データベース」「コミュニケーション」「プロセス管理」があり、顧客管理、出張申請、業務日報など幅広い用途で活用できるため、現場主導の継続的な業務改善を実現します。

製品サイト： https://kintone.cybozu.co.jp

報道関係者様からのお問い合わせ先
サイボウズ株式会社 広報
〒103-6027 東京都中央区日本橋 2-7-1 東京日本橋タワー 27 階
TEL: 03-6757-1250 / MAIL: pr@cybozu.co.jp

※商標・著作権表示に関する注記については、こちらをご参照ください。
https://cybozu.co.jp/logotypes/trademark/